

## 巻頭言

### 人と人をつなげる哀しい苦悩体験

日本ロゴセラピスト協会会長 勝田 茅生

#### 1. 戦争の始まり

2022年2月24日、ロシアが隣国ウクライナへの襲撃を開始しました。それから現在私がこの原稿を書いている時点ですでに3ヶ月近くが経過していますが、心理的威嚇とアグレッシブな兵器を使ったロシアの残忍な攻撃は止むところがありません。

今まで平和な生活を送って来たウクライナ人は、この突然襲って来た不幸に対して、その危険から身を護るだけで精一杯だと言えるでしょう。18から60歳までの男性が国に留まって攻めて入る敵に抗戦することを義務付けられています。あちこちの都市で攻撃の危険性が高まると家族は離散し、住居や家財道具をそのまま捨て置いて安全な地区へ移動しています。すでに何百万という人たち（主として高齢者、女性、子ども）が外国へ避難しました。逃亡を希望していても、逃げ道で銃撃される恐れがあるので、戦闘地の地下などに隠れひそんで助けを待つ人たちも少なくありません。夜には凍り付く冷たい地面の上で凍えながら、食料も飲料も底をつき、大きな不安と恐怖の中で絶望感と闘っています。また無事に避難地へたどり着いて、人並みの生活が始まったとしても、故郷で防衛している夫、息子、父親が無事かどうか、気が気ではないでしょう。携帯に送られてくる故郷からのビデオや通報を食い入るように見つめる避難民の姿が毎日報道されています。

世界中の人たちがそのニュースを見ながら、「いったいこの戦争にはどんな意味があるのだろうか？」と首をかしげています。たとえそこにロシアの言い分があり、かつての領土が西側の「ずる賢い資本主義」もしくは「ナチの残党」によって占領される危険性を防ぐためだったとしても、1万人以上を殺戮し、何百万人の人たちの平和な生活を犠牲にする「意味」があるのでしょうか？